

学校長先生
ご担当先生

令和5年度版高等学校国語教科書
『精選 古典探究 古文編』（古探704）
訂正のお知らせ

令和5年度版高等学校国語教科書『精選 古典探究 古文編』に訂正がございます。
先生方や生徒の皆さまにはご迷惑をおかけいたしますことを深くお詫び申し上げます。
令和6年度より、以下を訂正した教科書を供給いたします。
ご指導の際には、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

訂正箇所		誤	正
ページ	行		
59	脚注 * 語句 2	答 <u>ふ</u>	答 <u>へ</u>
269	3	<u>みかさ</u> 水嵩	<u>みかさ</u> 水嵩
273	図版 キャプ ション	『八犬伝之内芳流閣』	『八犬伝之内芳流閣』
273	図版 キャプ ション	うたがわよくに 歌川国芳筆	うたがわくによし 歌川国芳筆
274	4	<u>からむ</u> 乾蒸し	<u>からむ</u> 乾蒸し
275	8	<u>狐</u>	<u>きつね</u> 狐
276	10	<u>きつね</u> 狐	<u>狐</u> (削除)
284～ 286		※本文・図版差し替え：別紙（差し替え後紙面のみ掲載）	
302	下段 21	<u>雨月物語</u> （上田秋成）刊	<u>雨月物語</u> （上田秋成）刊

302	下段 23	<u>桃太郎昔語</u> (西村重信)	<u>桃太郎昔語</u> (西村重信)
303	上段 9	<u>野ざらし紀行</u> (松尾芭蕉)刊	<u>野ざらし紀行</u> (松尾芭蕉)刊
303	下段 8	<u>刻白爾天文図解</u> (司馬江漢)	<u>刻白爾天文図解</u> (司馬江漢)

株式会社三省堂

284 ページ（赤枠内が差し替え後）

古典の扉

オンライン「^{ずうむ}図夢歌舞伎」

二〇一九年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、私たちの日常は一変した。感染の拡大を防ぐために外出が制限され、人々が直接顔を合わせる機会や一堂に会する機会が失われた。その一方で、オンラインによるコミュニケーションの取り方が工夫され、そのための環境整備が急速に進められた。

芸能の世界においては、数え切れない公演が中止を余儀なくされた。歌舞伎も二〇二〇年二月以降、劇場での上演が取りやめとなった。この事態に危機感を抱いた歌舞伎関係者たちは、オンラインを用いた工夫を展開した。

最初に行ったのが、オンライン配信のトークイベントである。それまで歌舞伎座ギャラリーで行われていたトークイベント「歌舞伎夜話」の特別編として、二〇二〇年五月二十九日に「歌舞伎家話」をオンラインで配信した。¹松本幸四郎がビデオ通話でゲストの尾上松也と対談を行い、その様子を自宅から生配信した。この「歌舞伎家話」はその後も多くの役者達が出演して継続され、二〇二三年七月までの配信は、二十八回を数えている。

「歌舞伎家話」の好評を受けて、次に企画されたのが「図夢歌舞伎」である。³戸部和久の脚本、松本幸四郎の構成・演出・主演により、「⁴仮名手本忠臣蔵」の大序から十一段目までを「図夢歌舞伎『忠臣蔵』」として再構成し、二〇二〇年六月二十七日から五週にわたって配信した。

映像による歌舞伎作品としては、これまでも実際の舞台上演を撮影した「シネマ歌舞伎」などがあったが、オンライン配信のための上演である点で、「図夢歌舞伎」は全く新しい試みであった。感染を防ぐため一つの場面を別々の部屋で撮影し、一人一面の映像をつなげて共演シーンを作成した。また、舞台では見られない距離や角度から役者の表情を映し出したり、一場面に複数のカメラを用いて同時に多画面表示をしたりと、舞台上演ではできない見せ方が工夫された。

²⁸⁵ページ上段の写真を見てみよう。これは、「図夢歌舞伎『忠臣蔵』四段目（二〇二〇年七月四日配信）」の一場面である。左は松本幸四郎がリアルタイムで演じている大星由良之助、右は同じく松本幸四郎が事前収録で演じた塩冶判官。別々に撮影した映像を組み合わせたという「図夢歌舞伎」の特徴を生かして、一人の役者が同時に何役も演じ分けることができた。²⁸⁵ページ下段の写真は、「図夢歌舞伎『忠臣蔵』七段目（二〇二〇年七月十八日配信）」の一場面である。左下は中村雀右衛門演じる遊女おかる、

近世の文学

284

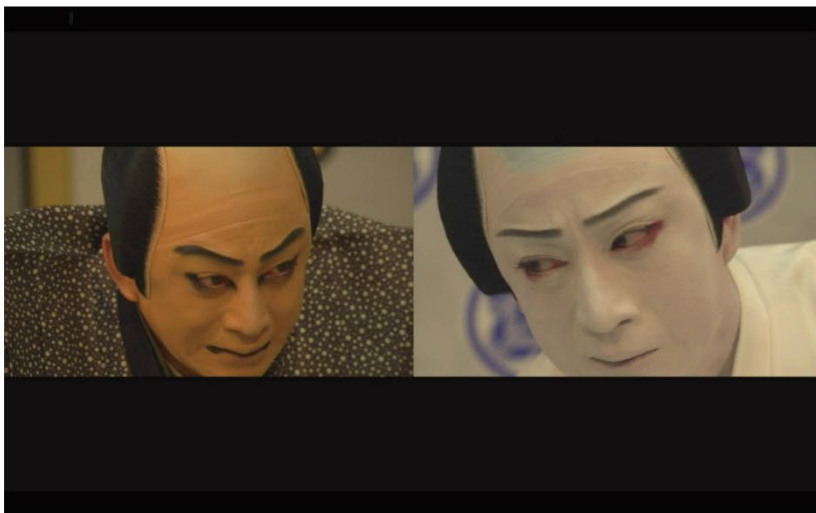
20

15

10

5

285 ページ（赤枠内が差し替え後）



図夢歌舞伎「忠臣蔵」四段目より。
大星由良之助（左）、塩冶判官（右）とともに、松本幸四郎が演じている。



図夢歌舞伎「忠臣蔵」七段目より。
松本幸四郎は、1982年に亡くなった祖父、初代松本白鸚と配信映像の中で「共演」した。

286 ページ（赤枠内が差し替え後）

右下は松本幸四郎演じる寺岡平右衛門、上は松本幸四郎の祖父である初代松本白鸚が生前に演じた大星由良之助の映像。過去の映像も活用することで、すでに亡くなった役者との「共演」も実現した。「囃歌舞伎」という新たな上演方法により、劇場における公演ではできなかったことが可能となったのである。

感染症の流行という避けようのない事態に対して諦めてしまうのではなく、それを逆手にとって新しい歌舞伎の可能性を模索しようという思いが、強く伝わる興行となった。コロナ禍という逆境の中でも、「夢を図る」という「囃歌舞伎」の名にふさわしい新しい試みであった。これまでの営みをどのようにして今後につないでいくのか。伝統を受け継ぐだけでなく、「今」という時代に即した新たな試みの積み重ねこそが、伝統を未来に手渡していくためには不可欠なことであろう。

1 松本幸四郎 一九七三年。歌舞伎役者。二〇一八年に十代目松本幸四郎を襲名した。

2 尾上松也 一九八五年。歌舞伎役者。一九九〇年に二代目尾上松也として初舞台をふんだ。

3 戸部和久 一九八四年。歌舞伎脚本家。

4 仮名手本忠臣蔵 寛延元（一七四八）年、大坂竹本座初演。竹田出雲・三好松洛・並木宗輔作。江戸時代前期に起こった、主君の恨みを晴らすために赤穂浪士たちが吉良邸に討ち入った事件をもとにした、浄瑠璃作品。歌舞伎においても上演された。

5 中村雀右衛門 一九五五年。歌舞伎役者。二〇一六年に五代目中村雀右衛門を襲名した。

6 初代松本白鸚 一九一〇年～一九八二年。歌舞伎役者。

単元の振り返り

- 作品の展開と登場人物の心情を的確に読み取ることができたか
- 古典作品の現代における意義や価値について考えを深めることができたか

■ 近世の文学への関心を深め、さらなる学びへの意欲をもてたか